

河川基金助成事業

「川と触れ合う原体験から、ふるさとの川へ」 報告書

助成番号：2024 - 7111 - 015

東京都 江東区立つばめ幼稚園

園長 神谷 美和子

2024 年度

助成番号	助成事業名		施設名			
2024-7111-015	川と触れ合う原体験から、ふるさとの川へ		江東区立つばめ幼稚園			
所在地	東京都 江東区		対象河川名	小名木川・横十間川		
対象園児	年長（19人）、年中（13人）		活動時間	時間		
河川教育の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の創り手を育むために、自然環境を大切にする人を育成する。幼児期に自然とたっぷりと関わり心を動かす体験を充実する。 ・身近な川に親しめるように積極的に地域の川に出向き、川の様子やそこに集う生き物に関心を持ち、また水辺で遊ぶことを通して、自然の不思議さ、面白さ、厳しさなどの様々な自然の姿を知り、自然への関心を深める。 					
育みたい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・川と生き物や自然事象との関係やつながり（知識） ・自然に関わる上で自分の行為はどうなのかを考えようとする。（判断力） ・気づき、感動、考えたことを伝えたいという思いを持ち、伝える。（表現力） ・自然への感謝、人と共に気づき、考える姿勢。（学びに向かう力・人間性） 					
学習活動の内容と成果						
<ul style="list-style-type: none"> ・4月～3月：近隣の小名木川には、年間を通して散歩をした。同じ場所に繰り返し通うことで、季節に応じた植物や鳥、魚に出会うことができる。大きな魚（クロダイ・ボラなど）の様子を目で追い、発見したことや驚いたこと、考えたことを伝え合う。他校種との連携として、河川付近で交流を行う。一緒に河川散歩を楽しむ。 ・5月横十間川の和船に乗り、船や川について船頭さんから話を伺う。 ・6月…横十間川で地域の釣り講師を招き、親子でハゼ釣りをを行う。 ・9月…バスで足立区生物園に行く。計画では干潟に行く予定であったが台風で断念。足立区生物園では、干潟にいる生き物や川の生き物を間近で観察することができた。また、8月に全国ニュースになった小名木川での魚の大量死について、講師より話を聞く機会をつくった。 						
【成果】						
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の川に触れる体験は、新たな自然の発見があり広い生態系に出会う機会になる。鳥の声、魚の動き、川沿いの植物などが季節によって変化すること、また、天候によって空や川の色などに違いがあることなど、園内にはない<u>自然の多様な姿に気付く</u>ことができた。 ・河川に出向くことが増えると、その都度、「サギがいる！」「カニがいる！」と幼児の気づきが増え、視野が広がる。<u>当初は意識が向かなかったことが視界に入り、友達と喜びを共有</u>することができる。 ・光と水（水中が見える）、風と水（川の動きが変わる）関係に<u>気付く</u>ことが増える。濁っている日と濁っていない日があるなどの<u>違いに気付く</u>ようになる。 						
学びの創意工夫点	川を中心にした地域マップを作成した。散歩に行くときに、そのマップを持っていくと、更に河川の生き物や植物に関心を深めることができる。					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	<ul style="list-style-type: none"> ・川をはじめ河川の生き物や草花への興味が深まった。保護者も刺激を受け親子の話題にもなる。感じたこと、疑問に思うことなどを伝えることは、自然で<u>当たり前</u>のようになっている。 ・魚や生き物が人と同じように暮らしていること、それぞれが一生懸命に生きていることを幼児なりに感じ取り、<u>思いやる発言が交わされる</u>ようになった。 					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援の概要	<p>専門家：川の不思議、川と生き物の関係などの知識。自然の不思議さ、面白さ、豊かさ、恐ろしさなどについて、自身の思いを語っていただく。専門家をこどもたちは、「名人」「隊長」と呼ぶ。その人の生き方にも刺激を受けている。</p>					
今後の課題・展開						
<p>河川工事により、現在、小名木川が濁り魚の動きが見えなくなっている。昨年の魚の大量死は、豪雨と川の汚れが原因という見解もある。人の暮らしも大切であるが、そこに住む生き物のことを考えることができる人を幼児期から育てていくことが大切である。自然への畏敬の念を、幼児だけではなく、家庭や地域、そして行政とともに共有していきたい。</p>						

地域の自然・文化の中で深まる体験

「豊かな水と緑の江東区」と言われ、園歌の歌詞「緑と川の扇橋」にあるように、本区は古くから川とともに歴史や文化と関わる暮らしがある。

■ は植物 ・ ■ は生き物

ハゼ釣り（横十間川）
保護者と共に地域の自然に触れる喜びを！（参観日）



散歩（小名木川）
「今日は、クロダイが見えるかなあ？」「草に隠れているよ」川辺に散歩にいくと、川を覗いて魚の様子を確かめることもたち。



「地域の自然・発見マップ」の作成

連携教育校・園、地域、保護者と協力し、地域の自然・発見を、マップに記載した。地域のこどもたちへの活用を検討。



地図は Google マップを活用

〈考察〉

- ・園外の自然に触れる体験は、新たな自然の発見があり、広い生態系に出会う機会になる。鳥の声、魚の動き、川辺の植物などが季節とともに変化すること、また、天候によって空や川の色などに違いがあることなど、園内にはない自然の多様な姿に気付くことができる。
- ・地域の方と関わることで、地域の特色、自然、文化と交わることができる。
- ・さらに、「人とつながる」ことは、そこで生活を営んでおられる人の生き方、感性、知識にも出合う。「その人が大切にしていること」を感じ、こどもなりに考える。そして温かく支えてくださる方々への感謝の気持ちをもつ機会になり、こどもに豊かな心が育まれていく。地域の自然を背景に仲間と楽しく遊んだ原体験は、思い出とともに地域への愛着につながると捉えている。

和船（横十間川）

和船体験では、船頭さんとこどもたちで、地域の自然や文化に触れる話題が、楽しく繰り広げられる。「なぜ？」がいっぱいのこどもたち。



助成番号	助成事業名	園名
2024-7111-015	川と触れ合う原体験から、ふるさとの川へ	江東区立つばめ幼稚園



学習活動名：「地域の自然・発見マップ」づくり

日付：年間を通して

携わった人：在園児、在園児保護者、教職員、地域の方々（高齢者の会、評議員等）、未就園児保護者、他校種教員等（保・小・中・高）

見られた子どもの姿：

地域の様々な方が来園した際、地域の小名木川と横十間川を中心にした大きな地域マップを出し、地域で目撃した植物や生き物を付箋に書いて、その場所に貼っていただいた。数名が地図を囲んで、「クラゲがいるよ」「カモもいる！」「えっ！」などと、会話が弾む。日常でも、「昨日、カワセミを見ましたよ」と親子で伝えにきたり、地域の方が教えてくれたりするたびに付箋が追加されていく。そして、幼児と地域に散歩に出掛けるとき、本マップで「ここでカニが発見されたみたい」と話題にしてから出掛けると、幼児は「何かに出会うかも」とわくわくする。散歩中に、「あっシラサギ！」「今日は川が濁っているね。クロダイが見えない」など、新たな気付きも広がる。

「自然」は、幼児だけではなく未就園児や地域の高齢者などにとっても身近であり、驚きや感動を共有できるテーマとなる。本マップにより幼児が地域の自然を意識するようになり、これまで気付かなかったものが視界に入り、地域の自然への興味・関心を広げ、深めている。

学習活動名：川の周辺を散歩

日付：年間を通して

見られた子どもの姿：

出掛ける前に、つばめ幼稚園オリジナルの「地域の自然発見マップ」をよくみる。今日散歩するところには、どんな生き物があるのか？植物があるのか？など調べてみる。そして出発！まず、遠方に鳥を発見！サギやカモも。園庭にもいる、イトトンボもいる。

塩の道と呼ばれる小名木川。カモがいるのどかな冬の風景。この日は、忍者になって道の端を歩く。

同じ場所に繰り返し通うことで、季節に応じた植物や鳥、魚に出会うことができる。大きな魚（クロダイ・ボラ）の様子を目で追い、発見したことや驚いたこと、考えたことを伝え合う。



学習活動名：1年生と地域のシンボルの橋で出会う

日付：2024年6月4日

見られた子どもの姿：

小名木川の川沿いに散歩に行く。天気がよく、川にはクロダイが見える「大きい！」と叫ぶ子どもたち。稚魚も見付けて喜んでいる。川沿いの草原の斜面にはたくさんの野草があり、直ぐに斜面を駆け上るこどもたち。面白い野草も見付け、匂いをかいだり、しっぽにしたりして遊ぶ。

そして、クローバー橋を見上げると、なんと小学校1年生が！手を振り合うこどもたち。橋を降りてそばまで来てくれ挨拶をする。これから地域の公園に出掛けるとのことである。実はこの出会いは偶然ではなく、こどもたちが、主体的に交流を進めるためのきっかけをつくる教師同士の計画であった。

本園の園歌には、「緑と川の扇橋」という歌詞がある。近隣の小学校にも、川の歌詞がある校歌がある。昔から川とともにある町ある。

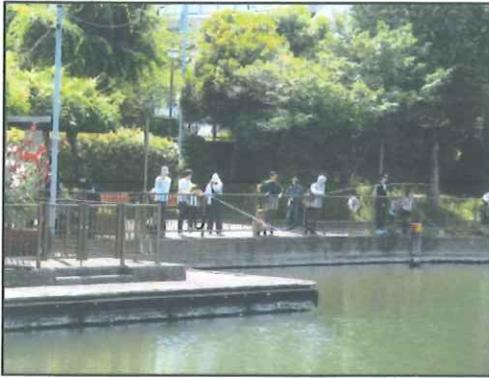
学習活動名：高校生と川沿いの散歩

日付：2024年10月22日

見られた子どもの姿：

小名木川付近で、高校生と一緒に散歩。高校生の中には、地元の生徒もいて、小さい頃、小名木川でカニ釣りをしたと教えてくれた。川沿いの草原で幼児と高校生がペアになって、「お気に入りの草」を見付ける。園に戻ってから、押し花のようにして、また、その「草」に名前を付ける。高校生は、幼児の意見を尊重し、一緒に考える。優しく関わる高校生。

高校生ともなると、地域の自然と触れ合う機会も減少していくであろう。しかし、幼少期に地域の自然にたっぷり触れたり、自然を背景に遊んだりした経験が記憶に残っていることもあるのではないだろうか。高校生が幼児と地域の自然で遊んだ際に、幼少期の記憶がよみがえり、「小さい頃、ここでカニを捕まえたよ」と自らの体験を懐かしく幼児に語ることは、地域と自分の結びつきを強めることになるであろう。また、幼児にとっても、年上のお兄さんやお姉さんとともに地域の草花を見付けたり、遊んだりする体験は、心に残るのではないだろうか。こうした思い出を通して、子どもは自身が成長した地域への愛着を深め、地域を大切にしたい心が育まれていくと考えられる。



学習活動名：親子でハゼ釣り

日付：2024年6月8日

見られた子どもの姿：

年長の保育参観日に、「親子でハゼ釣り」を計画した。地域の名人に支えていただいていた活動である。

今年度は、6月に計画したが、ハゼ釣りの時期には、少し早かったようでハゼがまだ小さかった。しかし、何匹か釣ることができた！（魚は川に返す）

保護者の方との釣り体験というだけではなく、地域の自然に触れる体験になることを願っていた。そして、釣りをしながらも、いつの間にか川の周囲の花や草、風、また川の水の色と光りの関係など、様々なことを気付いたり感じたりする機会となっていた。

将来、「幼稚園のときにつばめ幼稚園の近くの川で、家族とハゼ釣りをしたなあ」という「思い出」が原体験として残ってくれることを願う。



写真



学習活動名：和船体験

日付：2024年5月22日

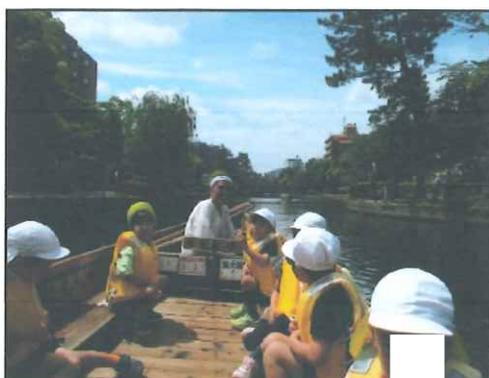
見られた子どもの姿：

和船は木でできた江戸時代からの特別な船であり、地域の中で、江戸の文化を体験することができる。天気もよく、友達と一緒に乗る和船体験は楽しいが、なんとと言っても船頭さんの声掛けが素晴らしい。個々の子どもをよく見て、その子の発言に対して面白く返してくれる。「ビシッと言うけど温かい」そのような雰囲気である。

「魚に触ったことがあるか？」

「この前、ボラがジャンプして船に乗ってたんだよ！」

など、楽しい話をしてくださり、川の中の生き物のこと、木でできた船のこと、自分の服装のことなど、子どもの問いかけに合わせていろいろ話して下さる。子どもたちも「たくさん漕いで疲れないの？」「この服、かっこいいね」など話し掛ける。





学習活動名：足立区生物園への遠足

日付：2024年9月3日

見られた子どもの姿：

干潟遠足は台風で行けず、雨天の計画で足立区生物園に行くことになった。

つばめ幼稚園の子どもたちは、自然に目が向くようになっていたので、見方、見るポイントが面白い。生き物の立場も考えられるようになってきているので、ルールも守る。ルールは教えられるものだけではなく、感じるものと、子どもたちから教えられる。



素朴な生物園ですが、個の生き物を大切にしている雰囲気が漂います。池の中にも興味津々のこどもたち。つばめ幼稚園の池と同じ生き物が！引率の講師の先生から川の中の生き物の説明も聞く。干潟のカニには会えなかったが、ここにもカニがいた。干潟にいる生き物や川の生き物を、間近で観察することができた。

また、講師より、8月に全国ニュースになった小名木川での魚の大量死について、話を聞く機会をつくった。なぜ、魚たちが死んでしまったのか、気温や豪雨、川の汚れと魚の体のしくみなどの関係を教えていただいた。



様式 15

[学校部門]

[実施箇所位置図]

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7111-015	川と触れ合う原体験から、ふるさとの川へ	江東区立つばめ幼稚園

主な実施箇所

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。
 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。
 (縮尺は 1/50 万～1/100 万程度)



助成事業の主な実施箇所